

# 外国出張報告



ウイルス病研究チーム 上席研究員 中村 菊保

**目的・用務：世界獣医家禽学会第15回大会**

**出張期間：平成19年9月11日～16日**

**出張場所：中国北京市**

## 【用務の内容】

2007年9月10～15日に、世界獣医家禽学会第15回大会（WVPC2007）が開催された。この大会は世界獣医家禽協会（World Veterinary Poultry Association）が2年に一度主催する、家禽疾病の研究者が成果を発表する国際学会である。かつては、4年に一回であったが、最近では2年おきに各国の支部において開催されている。今回は、中国畜牧獣医学会（Chinese Association of Animal Science and Veterinary Medicine, CAAV）が北京において司催した。CAAVの会員のうち、家禽衛生支部の会員は1,200人で、そのうち110人がWVPA会員であるということである。2008年の北京オリンピックの1年前に開催された。今回、我が国からは筆者と同じく動物衛生研究所ウイルス病研究チームの山本佑君が参加した。

今回会場となったのは、北京北部の九華山荘ホテル（Jiuhua Grand Hotel）である。この場所はかつての皇室が利用していた温泉のある宮殿があったと聞いている。北京の昌平区にあり、北京国際空港から車で30分、北京市内からは車で40分の距離である。ホテル、会議場、レストラン、レクリエーション施設などのそろった総合娯楽保養施設である。構内にはスカイトレインが走り、広大な敷地の移動ができるようになっている。60万平方メートルの敷地内に、2360室の客室、10店のレストラン、ボウリング場、テニスコート、バドミントンコート施設、さまざまな球技、チェス室、ゲームアーケード、4D映画館、ナイトクラブ等のレクリエーション施設、100以上の豪華な会議室がある。

口頭講演としては、基調講演及びセッションがあり、これ以外にポスターセッションがあった。今回筆者はポスターセッションで、“Pathological and Immunohistochemical Studies of Newcastle Disease (ND) in Broiler Chickens Vaccinated with ND: Severe Nonpurulent Encephalitis and Necrotizing Pancreatitis”、“Pathology of

Cutaneous Fowlpox with Amyloidosis in Layer Hens Inoculated with Fowlpox Vaccine”の2題を発表した。

## 【所感】

今回は、鳥インフルエンザ関係の発表は予想どおり多かったが、ニューカッスル病（ND）に関する発表が多いのに驚いた。NDはワクチネーションで防除でき、過去の病気かと思っていたが、中国では、野鳥での致死性ウイルス感染、野鳥由来NDウイルスの鶏への感染、ワクチン株と強毒株との組換え体株によるワクチン効果の低下など、高い抗体保有鶏からのNDウイルスの分離など、鳥インフルエンザウイルスで起こっているような現象がNDでも見られている。これは、中国での特別な現象かもしれないが、中国から我が国へのウイルス伝播も注意しなければならない。いろいろ勉強になった。次回の第16回大会は2009年にモロッコのマラケシで開催されるとのことであった。また、その次の第17回大会は、メキシコに決定したと聞いている。

